



タイムスリップ!

前号、前々号に続いて今号は、江戸時代の寛政三美人にタイムスリップ!

寛政三美人 高島おひさ

両国薬研堀の茶屋で働く茶屋娘。



富本豊雛

とみもと とよひな

富本節という三味線を伴奏しながら物語を語る吉原の芸者。当時の誰もが知る美人芸者だった。

難波屋おきた

浅草寺付近の茶屋で働く茶屋娘。

茶屋とは、道端や寺社の境内などでお茶を飲んで休憩をする、現代でいうところの喫茶店やカフェです。

茶屋の起源は京都。江戸には18世紀中頃から沢山出来ました。茶屋で

ゆっくりすることも目的の一つですが、主に男性だと思われませんが、茶屋で働く茶屋娘を見に行くのを楽しみにしている文化もあったそうです。茶屋娘がいるお店と茶屋娘がいないお店では料金も十倍違うお店もあったそうです。寛政頃、数多くいた茶屋娘の中でも特に美人だと噂された彼女達見たさに沢山の人が茶屋を訪れたそうです。当時の会いに行けるアイドルということですね。彼女達の中には、手ぬぐいや双六などといった、現在のアイドルグッズの様な物まで売られていた茶屋娘もいたそうです。そんな彼女達を寛政三美人として描いたのは、浮世絵師・喜多川歌麿です。彼が描いた浮世絵を見た人達が、

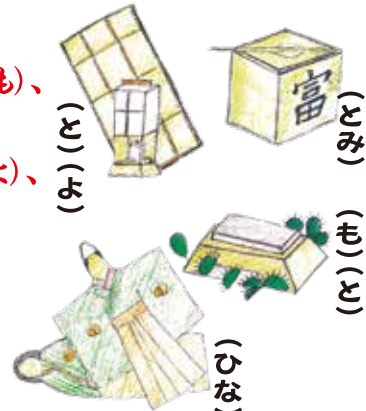


実物見たさに殺到するという連鎖をしていたそうです。現代の私達が見ても違いが分かりにくいですが、着ている着物の家紋、顔立ち、僅かな表情の違いから、当時の人達はどれが誰かを判断していたそうです。また当時の条例として、個人の女性の名前を記すことが禁じられていた為、喜多川歌麿の遊び心から、ヒントが描かれている判じ絵という物もあります。

この判じ絵は、

富じの箱(とみ)、藻(も)、砥石(と)、戸(と)、行灯(あんどん=夜)(よ)、紙雛(ひな)で、

この美人画は富本豊雛ですよとメッセージを込めているそうです。



沢山の美人画を世に出した浮世絵師・喜多川歌麿。そんな彼の才能を見出し、世に出したのが来年2025年の大河ドラマの主演・つたやしゅさぶろう 鶴屋重三郎です。吉原の芸者、茶屋娘、そして浮世絵師、彼女達、彼らがどんな日常を送っていたのか映像としてみられるのが楽しみですね。

2024年も大名、大和魂を御慶び頂き、ありがとうございました。貴方様にとって、2025年も最高の年で迎えますよう、大名一同心よりお祈り申し上げます。新年もどうぞ宜しくお願い致します。

ともかくも大名任せの暮

年末恒例！大名一句

大名のはからいにどにかく任せて、年の暮れを迎えましょう。の意味。

※大名のはからいとは…大和魂を片手にゆっくりとした年末を過ごしてもらうこと。



今号の大和魂はいかがでしたか？ 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社 大名 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937



届けますっ!

大和魂 2024年12月 Vol.63

经营理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

研修旅行 in香川・丸亀城

ほほううどん



いこまちかまさ かすまさ

丸亀城は1597年生駒親正・一正によって築城されました。親正は信長の家臣となり、その後は秀吉の家臣として戦功をあげ、讃岐一国を与えられました。安土城や大阪城を模したとされるこの城は、城郭だけでなく、城下町も石垣や土塁で囲まれた手法で作られています。周囲を巡るように内堀が残り、その内堀の北側に架けられた石橋の先に大手口があります。

大手二の門



門の柱がどっしりとしとるね~大きいわ~!!

ここでどんだけの敵兵を仕留めるかに掛かっていたんよ。



大手一の門

大手口は、四方を囲まれた枡形に、出入り口となる虎口を二つ設けた「枡形虎口」と呼ばれる構造になっています。虎口は、守りの最重要ポイントです。なるべくここで敵の勢いを削ぎ、食い止め、弱点である側面を突き、門を突破されないようにする。その為に作られた現重要文化財の「大手二の門」、「大手一の門」。敵が近づいてくると一の門が閉ざされて、この門と門の間にあるのが、枡形に誘導。

いや、こわっ! ここで、敵の勢いを一掃してたんじゃね。

こんにちは。島谷貴子、中堀明美です。前回の松山城に続き四国へ…瀬戸大橋を渡って香川県にある丸亀城へ行って来ました!

研修すけじゅーる

しゅっぱーつ!

まずは…うどん! 「なかむらうどん」さん

丸亀城 見学

お昼に…うどん!! 「麺処 綿谷」さん

帰宅の前に…とどめの一杯!!! 「塩がま屋」さん

帰着! たいまい! お腹いっぱい!



中面に続く

天守閣を目指していざっ!!

しかし!!
目の前に見えた景色はなんとも厳しい坂

ええ? 見返り坂って何?
先が見えてないんだけど...

中堀

島谷

傾斜がきつい坂で、時々立ち止まって振り返りたくなることから、
いつしかそう呼ばれるようになったらしいよ! さあ~頑張っていこう!

社長 「よ、よっしゃ、一気に上がるぞ!!」

何度も坂を見返りながら、この角度だったら、敵も疲れるはずだと感じました。
その途中に…**石垣の名城**としても有名な丸亀城。標高約66メートルに築かれた石垣は高さが日本一です。

扇が開いたような曲線を描いたように見えることから、扇の勾配と呼ばれています。
そして別名、**武者返し**とも呼ばれています。上に向かえば向かうほど反りが激しくなり登ることが出来ないからです。この石垣を完成させた中心人物の羽坂重三郎のお話です。殿様が完璧な石垣に満足して「この石垣は誰も乗り越えることはできない」といったところ、重三郎は「私なら簡単に登れます」と鉄の棒を使って上ってしまいました。殿様は「石垣の攻略法が外に漏れたらまずい!」と、重三郎を井戸の底の点検に入らせ、気づかれないよう上から石を落とされ殺されたという伝説が残っているそうです…なんとも怖い話ですね。

坂を登ると、飯野山が見えました!!
「讃岐富士」とも呼ばれています。
丸亀市街地も一望できとっても眺めが良くて風が気持ち良かった♪



讃岐富士

社長 冬なのに今日は暑いわ!
でも爽快で気持ちええわ!

島谷 ほんま!!汗がとまん!!

二の丸を通り、
天守閣までもう少しです!

右ページに続く▶

京極坂を登ったら、ついに本丸に到着!!!



京極坂

本丸にある天守。1643年より、山崎家治が再築に着手しました。
天守の造り方も、3層3階の小さな木造天守(11m x 9m)です。
そして日本で12城しかない当時の姿を残した現存天守の一つです。

中は、とても小さく感じました。特に、階段がとても急でした。
上がる時は平気でしたが、下りる時は怖くて、何度も足元を確認していました。

入ってみましょ!!

すっごく急じゃね!

ねえ大丈夫? 落ちない?



玄関先御門

「御殿表門」とも呼ばれ、お城の門としては珍しい薬匠門形式で、江戸時代初期に建てられました。



一説には矢の攻撃を食い止める「矢食い」からきたとも言われています。また、かつて医者めくの門として使われたことから、門の脇に木戸をつけ、たとえ扉を閉めても四六時中患者が出入りできるようにしていたともいわれています。

この門をくぐり、少し歩くと…丸亀市立資料館に到着

郷土の貴重な歴史・民俗資料、美術工芸品などが保存され、民具展示場などの常設展のほか、企画展も行われています。今回私達がお邪魔した時は「京極家の至宝 につかり青江のすべて」でした。平安時代末期から南北朝時代にかけて備中青江で活躍した刀工流派。展示されていた、全ての刀剣、刀装具、どれも素敵でした。その中でも個人的に印象に残っているのが「恵比寿大黒留守模様図鏢」、「浦島太郎



図小柄)でした。そして、なんといっても刀剣の刃文、刃中がしっかりと見えるライトの角度が最高で刀から目を離すことが出来ませんでした。毎度のことながら、城を巡る平均所要時間、資料館を巡る平均所要時間を大幅に超えての見学で、社長の歴史知識を聞きながらこの度も学びの多い研修となりました。でもなんといっても、大名メンバー食事にも重きを置いているので…うどん県の色んなうどんを食したことに、お腹も、頭もしっかりと満たされました。